

新連載

IBD患者の就職について考えよう

みなさん、はじめまして。エランシアの高原です。私たちエランシアは障害をお持ちの方の就職や転職をサポートする仕事をしています。今月から6回に渡り、IBD患者さんの就労についてみなさんと一緒に考えたいと思います。



# 1 企業はIBDにどのようなイメージをもっているのか

企業の人事担当者はIBDという病気をよく知らないという人が多いです。まずは病気について企業側によく知ってもらい、次に服薬で体調のコントロールが可能であること、そして職場でどのような配慮が必要なのか。これらを企業側に認知してもらう必要があると考えます。そこで私はいくつかの企業に出向き、人事担当者にヒアリングを行いました。

〈A社〉入院を繰り返し、退職となったケースがあり、それがきっかけでIBD患者の採用はブレーキがかかっている

〈B社〉勤務時間の配慮、業務内容の軽減などの対策はしたが、症状悪化で退職。以降、採用は検討するも積極採用はしない方針

〈C社〉面接事例は複数あるが、配慮が難しそう

残念ながら、すべての企業がIBDを理解し寛容に受け入れるとは限らない現状が浮き彫りになりました。しかし、あきらめるのは早いです。**人事担当者は、少しでも不安があると、「受け入れが難しい」と判断せざるを得ません。**

**いかに人事担当者の不安を払しょくできるかが、鍵です！**まずは「働こう！」という気持ちを強く持ち、症状が安定していれば、その状況を面接時に企業側へ誠実に伝え、理解を得るようにアクションすることが一番重要だと思います。IBDはストレスが悪化の原因のひとつになるといわれていますね。私が調べたところ、就労時に医師から受ける注意としては「ストレスを避ける」が圧倒的に多く、作業強度や残業の制限は比較的少ないようです。ならば、自分にとってどういうことがストレスになるのかをしっかりと分析し、その内容を面接時にどう伝えるか。そしてそれをどう対処すればクリアできるのか、など対応策を含めて十分に練っておく必要があります。人事担当者に

安心感を与えるような伝え方には、ちょっとしたコツが必要かもしれません。

客観的にアドバイスがもらえる人材紹介会社

など、第三者を活用しながら就職活動をすること

が、有効な手段のひとつと考えられます。

[www.elancia.co.jp](http://www.elancia.co.jp)

株式会社エランシア

私たちエランシアはIBDの方がひとりでも多く就労できるようサポートします。

CCJAPAN  
vol.73

46  
page